

新潟県リコーダー教育研究会会報 平成23年度3号
平成24年5月13日(日) 発行



さえずり

新潟県リコーダー教育研究会 会長 小池 純夫
(南魚沼市立大崎小学校 教頭)

「自信」をもたせよう

副会長 嶋見 靖之
(佐渡市立金井中学校教頭)

3月末全日本リコーダーコンテストに行った。全部の演奏は聴くことができなかつたが、役員をしながら中学生の合奏を聴くことができた。新潟県代表の羽茂中学校、真野中学校、紫雲寺中学校の演奏は共にリコーダーオーケストラの王道を行く重厚な響きで充実した演奏を披露していた。賞としてはいずれも銀賞であった。個人的には、素晴らしい魅力のある演奏と思った。演奏を仕上げた指導者の先生方に敬意を表したい。



ところで、この日印象に残った演奏を2つ紹介する。一つは、金賞を受賞した兵庫県代表、伊丹市立荒牧中学校である。川崎祥悦氏の編曲による八木節と南部牛追い歌が演奏された。安定した合奏の伴奏の中でソロの生徒が前に立って節を奏でていた。節の雰囲気を感じ取って消化し、銜い(てらい)なく客席に演奏を伝えていた。もう一つは花村賞に輝いた北海道代表、札幌市立北陽中学校である。指揮者と演奏する生徒達がまさに一体となって、マーシャル作曲、交響曲第1番を説得力をもって演奏していた。

どちらの演奏もリコーダー合奏としての高い水準をもつだけでなく、「主張」をもった演奏だったように思った。自分の経験を振り返ると、①「表現意図(何を表現したいのか)」が明確であり、②「表現方法(どのように表現するのか。リコーダーではアーティキュレーションの役割が大きい。)」が的確であること、そして③表現意図と表現方法を生徒一人一人が自分のものとし、自分達が表現するんだという強い意志と熱意を有すること、以上3つが生徒に育っている時に、主張のある演奏が生まれたように思う。

①、②は勿論だが、③を育てることが今の私たちに求められているのではないか。自分の経験では③の源は「自信」だと思う。「これだけやったんだ」という自信、「上達した」という自信をもたせるためには、粘り強く充実した取組とチーム育成、指導者の適切な確かな働き掛けが不可欠である。これらはすべて指導者が行うことである。私たちは、生徒に

自信をもたせられるよう、情熱をもち専門性をさらに磨いていかななくてはならない。

演奏を作り上げる経験によって培われた自信は、人の心を打つ演奏につながるだけでなく、音楽を愛好することやこれから生きていくための心の支えになるはずである。中流指向や閉塞感といった社会の風潮を吹き飛ばし、夢と希望をもった子どもたちを育てるためにも、「よく頑張ったね」、「感動したよ」という言葉を児童・生徒にもたせられるのは私たち指導者なんだ、という思いをもって、会員同士支え合い、前を向いて進んでいきましょう。



第37回新潟県リコーダーコンテスト金賞受賞団体

及び全日本リコーダーコンテストへの推薦団体

- 月日 平成23年12月3日(土)
- 会場 長岡市・リリックホール ○ 主催 新潟県リコーダー教育研究会
- 後援 新潟県教育委員会、全日本リコーダー教育研究会、東京リコーダー教育研究会

<小学生の部>

○四重奏

- ・ 「ジャーマン ソング フェスト」より …… 魚沼・堀之内小

○五重奏以上

- ・ テイスティー トリフレス …… 十日町・馬場小

○合奏

- ・ 「ステップ・ステートリー」より …… 十日町・貝野小
- ・ 組曲「英國戀物語エマ」より …… 十日町・馬場小
- ・ アイリッシュ エア アンド ダンス …… 魚沼・堀之内小

<中学生の部>

○四重奏

- ・ シュピールムジーク …… 佐渡・羽茂中
- ・ 「レンツブルク舞曲」より …… 佐渡・真野中

○五重奏以上

- ・ スペイン組曲 …… 佐渡・羽茂中

○合奏

- ・ ディヴァージョンズ …… 新発田・紫雲寺中
- ・ 「フルートラス」より I II V …… 佐渡・羽茂中
- ・ セレナーデ ヘ長調 …… 佐渡・真野中

<一般の部>

○独奏

- ・ ファンタジア ニ短調 …… 三条・Okaya. O. T

○合奏

- ・ 「7つの笛の踊り」より …… 十日町・十日町リコーダーアンサンブル

<銀賞の中からの全日本大会推薦団体>

○小学校 5重奏以上

- ・ 「スリーダンス」より …… 十日町・中条小

○小学校合奏

- ・ 「コットンブロッサム組曲」より …… 中魚沼・津南小

○中学校 5重奏以上

- ・ 5声部のソナタ …… 新発田・紫雲寺中



コンテスト審査講評 ～ 本村睦幸 先生

<中学校、一般の演奏を終えて> ※ 小学生にも一般にも示唆に富む御指導です。

◎ 今リコーダー演奏をしていること、今日参加したことは、今後、音楽を楽しみ続けていく(生涯音楽)きっかけにして欲しい。

- ・ 中学生のみなさんにとって、(今日の)一般の方の演奏はいいお手本であったと思う。自作のソロ曲、バロックのソロ曲、ルネッサンスのアンサンブル曲、現代のアンサンブル曲といろいろなリコーダーの世界を聴くことができたから。
- ・ 今後もいろいろな音楽の世界を知って行って欲しい。
- ・ コンテストは点数を付けて賞を決める。しかし、点数がどうであるかは、音楽にとって大きな要素ではない。点数を付けられるものではないというのが音楽のよいところ。ここをよく理解して、(コンテストの結果を見て)必要以上に一喜一憂しない。これからも音楽を楽しみ続けて、深めていくことが大切なこと。今日まで、1年間かけて1曲(数曲)を楽しみ仕上げてきたことは大切なことでした。今回の演奏曲以外にも練習したものもその楽しみ方の1つであった。今後、いろいろな音楽を楽しんでより豊かな音楽生活を歩んで行ってください。



東日本大震災の被災地へ、リコーダー演奏再訪記

広報(ホームページ)担当理事

児玉 禎明

昨年、3月11日の東日本大震災から1年が過ぎました。復興にはまだまだ時間が必要ですが、少しでも早く復興されますよう、心よりお祈りしております。

昨年の6月18日に、被災地である宮城県石巻市の避難所「石巻中央公民館」を訪問しました。そこで、独奏と坂本忠厚先生との二重奏で、「東日本大震災復興リコーダー演奏会」を開きました。坂本先生は、以前、県リコの夏季研修会へ石巻市から参加された方です。その記事を会報「さえずり」、平成23年2号(10月1日発行)に載せていただきました。演奏会をお聴きいただいた被災地の皆様から、



是非またお聴きしたいという声が多く寄せられたそうでした。そこで、昨年12月9日・10日・11日に宮城県内の被災地を再訪しました。

9日と10日は、復興が進み石巻市内の全避難所が閉じられたため、仮設住宅の集会所で行いました。9日が「石巻市開成仮設住宅第11団地北側集会所」、10日が「石巻市開成仮設住宅第14団地集会所」です。2日間とも同一プログラム。独奏とMIDI伴奏で「北国の春」、「ドラえもののうた」、「日本の四季 メドレー」、「東日本大震災復興への祈り」、「クリスマス・メドレー」、「リンゴの唄」、「千の風になって」、「三百六十五歩のマーチ」の8曲。その後、坂本先生と二重奏、「月の砂漠」、「津軽海峡冬景色」、「コンドルは飛んで行く」、「ふるさと」の4曲。「日本の四季 メドレー」は、昨年6月18日にも演奏しました。多くのリコーダーの種類を紹介するために、6月の時とはメドレーの全曲を変えて選曲し、クライネからバスの6本を使い、順に「さくらさくら」・「春よ来い」・「春が来た」・「夏の思い出」・「小さい秋見つけた」・「雪」のメドレーにしました。「東日本大震災復興への祈り」は、昨年の県コンテストで独奏した自作作曲で、被災地の復興を願う趣旨の曲なのでこの曲を入れていただきたいという要望によるものです。「クリスマス・メドレー」は、12月でしたので、「メリークリスマス」・「ジングルベル」・「荒野の果てに」・「聖しこの夜」・「もろびとこぞりて」の5曲をメドレーに。多くの世代の方々がいられたので、坂本先生と打ち合わせの上、広く知られている曲を選曲しました。

11日は、石巻市に近い塩釜市の「ふれあいエस्प塩竈」という会場で、宮城県内の合唱団体13団体による「震災復興祈念コンサート」という催しが行われました。コンサートの主催者からリコーダー演奏の依頼があり、坂本先生と「月の砂漠」、「津軽海峡冬景色」、そして、私の独奏で「東日本大震災復興への祈り」を。3曲目は、合唱団体の演奏を含めた全プログラムの中で一番多くの拍手をいただき、お役に立てて大変嬉しく思いました。最後にピアノ伴奏と私のリコーダー、そして、会場の方々が手にキャンドルを持ち、全員で「ふるさと」を歌い、復興を願うすばらしい催しの幕を閉じました。

3日間の演奏会後に坂本先生から、どの演奏会も大変好評であったとの連絡を頂きました。リコ研会員の方々に復興演奏会の様子をお話しましたら、「リコーダーは癒される音色なので、心の癒しを求めているらっしゃる被災地の皆さんに、よく合ったのではないのでしょうか。」というお話を多数いただきました。

言葉では言い表せない大惨事でしたが、被災地の皆様方の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



◆ 広報担当からお願い ◆

24年度のさえずり編集は1人になります。そのため、**記事は、各部署の担当からお願いいたします**。総会での各部署の年度方針、例会のポイント、合宿の成果、コンテストの結果・審査講評等＋写真記録。当初に部内で割り振りをしていただくと個人への負担が減ります。お手数をお掛けいたしますが、宜しくお願いいたします。なお、記事の投稿は、随時受け付けています。いずれもメールで下さるようお願いします

mitu3tu@gmail.com (樋熊)。後ほどメールでお知らせします。**まだ、アドレスをお知らせくださっていない方は、早めにお知らせください。**